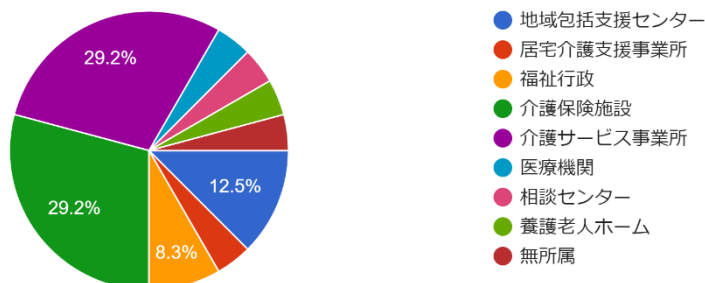


2023.08.20. R5「養介護施設従事者による高齢者虐待対応基本研修」振り返り

職種

24件の回答



「養介護施設従事者による高齢者虐待対応基本研修」に参加して思ったこと、気づいたこと。
・今まであたりまえだと思っていたことが、権利侵害にあたっていたということ。不適切だった、などではなく虐待であり権利侵害を行っていたということを改めて学び、今後に向けて事業所内、法人内で学ぶ必要性を感じました。
不適切ケアと認識していたことが、虐待にあたると知り、自分の認識不足を痛感しました。きちんとした知識を持つことが、虐待防止や身体拘束に繋がるので、理解を深めたいです。
①ケアマネとして、本人の生活能力の確認・理解力を含めた認知機能の把握を、しっかり行うことが本人の、その後の生活を安心したものであることを再確認できた。 ②「有料老人ホーム」に3つの種類があることを知ることができた。普段の仕事の中で活用することがない範囲であるので、質問されても『???』でした。 ③高齢者が生活する場合は虐待対応の対象であることも確認ができた。
権利が侵害されていないか、行動の自由が制限されていないか、客観的に組織で判断していく必要がある。
高齢者虐待類型（例）の新旧比較が大変わかりやすく、参考になりました。次はぜひ、具体的な対応方法等について学ばせていただきたいと思います。
身体拘束等については、運営基準に則って運用することが基本とされ、高齢者本人の行動の自由を制限しているかどうか、すべてが身体拘束になると学び直す機会となりました。
入所施設従事者だけではなく通所系、訪問系、居宅・包括の職員も養介護施設従事者になるということ。
虐待増えてきたと話があり、気を付けていきたいと思いました。
養介護施設従事者につて、理解が深まりました。

<p>今回研修に参加してわかったことは、①人格尊重義務違反、②有料老人ホームに種類があること。高齢者虐待の対応など、知らないことが沢山あることに気づきました。今回参加したことで何を学ぶかのきっかけになりました。</p>
<p>今回、この研修に参加して、リモートでしたが、とても分かりやすく、グループワークもあり、色々な施設の方の意見も聞けて良かったと思います。今まで、介護の仕事をして来た中で、自分でここはグレーゾーンかな？と思っていたところは全て虐待だったんだなあと感じました。認知症だからと決めつけず、人として、人生の先輩として意見を聞きながら、虐待かどうかと迷った時には、自分がされたら？言われたら？と自分に置き換えて、今後の業務に役立たせたいと思います。</p>
<p>施設の当たり前が権利侵害に繋がることもある。職員一人一人の認識を変えていくことが大切だと感じた。</p>
<p>不適切な対応と、虐待との境目についての認識が改めて明確になった。対応についての行政の役割の違いなどについても、本来どうなっているかを知っておかないと、正しく対応されているかどうかの評価もできないということも改めて認識できた。</p>
<p>今回研修に参加させて頂き、自分自身が身体拘束や虐待について理解していたつもりでも実際はまだまだ知らない事も多く今回の研修を通して新しい知識を得ることができました。</p>
<p>専門職として利用者が安心して生活できる場、サービスを提供しなければならないと改めて思いました。その為に一人一人が正しい知識を身につけることが大事だと強く思いました。</p>
<p>虐待について細かく知ることができた。日々の業務の中で気を付けていきたいと感じた</p>
<p>これからの高齢者虐待に関してはより高い知識と技術で臨む姿勢が必要と感じた。</p>
<p>殴る、蹴る等の身体的暴力だけではなく、移乗介助で高く持ち上げることも虐待になるということを確認することができた。職員が業務として普段行っていることも虐待となることがあるということ。</p>
<p>心理的虐待やネグレクトによる介護放棄の問題を、直接関わりを持つ施設職員が、故意か無意識でそのような結果に至っているのか判断しにくいところがあります。職員でお互いを支援して対処していくことも必要だと感じました</p>
<p>養護者により高齢者虐待をほとんど勉強していたが、施設従事者等による虐待を学ぶことができて良かった。包括として虐待を発見する立場でありながら、自分たちが虐待をしてしまう恐れもある。利用者や住民に対して良い関わりをしていき、本人とよく話し合っていけばおのずと虐待をしてしまうことはないだろうと思う。</p>
<p>虐待判断の「ものさし」は自分自身であることを認識し、言葉や行動が虐待にあたらないか自問するためにも、研修を受けたり、報道などに敏感である必要性を感じました。</p>

虐待には『身体的虐待』『介護・世話の放棄・放任』『心理的虐待』『性的虐待』『経済的虐待』があることに気づきました。

知らず知らずの間に不適切な対応をしていた可能性があったのではないかと思います。

・虐待の例として眉をひそめる内容のものもあれば、言葉による拘束のような形として残らないものもある。緊急やむお得不い場合の拘束だとしても本人様からすれば虐待を受けていると感じること。今までは法的な部分を考えず、自分の匙加減でしか判断していないのだと気付かされました。

・虐待への対応として、大前提として施設での管理職や現場のリーダーにあたる人物が率先して理解し、実行・周知することが必要だとは思いますが、日本語や日本独自の慣習に不慣れな人や未経験で現場で介護にあたる人に対しても法律だからと固く決められた文章だけを伝えることだけでなく、段階を踏みながらの理解してもらいやすい説明や認知症への理解を深めていける案を現場や多方面からも出ればより良く出来るのではないかと思います。

今後に向けて取り組みたいこと、抱負など

・専門職として、虐待とは、病気や障がいの特性を知り、その特性に合わせた対応が必要であること。また、そのような知識だけでなく、事業所内で良い関係性、風通しの良い職場であることが、利用者へ良い関わりを行い、結果虐待予防につながるよう、明日から取り組んでいきたいと思えます。

入居者が安心して生活できる場所になれるように、今回の研修で学んだことを職場で共有し、改善していければと思えます。

働く職員に対して研修の機会を組織的に提供していくこと、最新の情報を同僚・上司と情報の共有をしながら現状の自分たちの確認をして、有意義な仕事を続けていきたいと思う。

直営包括であるため役割を再確認する。また、虐待例の内容を繰り返し確認したり、権利侵害にあたらぬか等を常日頃確認したりすることで、権利擁護を図っていききたい。

施設の内部研修で虐待についての研修を行うと、「こうすることは虐待ですか？」「安全を優先したいのに虐待になるんですか？何かあったらどうするんですか？」と聞かれることがあります（聞いてくる時点で、虐待にあたりとわかっているのだと思えますが・・・）。今回受講させて頂いた虐待対応基本研修で学んだことや、虐待についての具体的な例を職員全体に伝え、虐待や不適切な介護に気付ける目と、柔軟な対応力を養っていききたいと思えます。

体調が悪く入院をされる高齢者本人が、治療を優先するため行動を制限され、心身の機能低下や生活障害を抱えてしまいます。関わっている医療、看護スタッフも何かおかしい

と、気づいている方もいます。虐待が発生する要因に組織運営面の何らかの問題が、職員の行動に影響及ぼしているため、身体拘束がされないよう前向きに予防していける話し合いや良い関わりにつなげていきたいと思います。
虐待対応が円滑になるよう、職場内の環境整備、苦情窓口の充実
仕事をして言うてはいけないことや、やってはいけないこと等もしり、入居者と安心安全仕事をし、気を付けていきたいと思います。
マニュアルにある虐待の例は、「不適切なケア」ではなく、虐待であるということを知る事が大事だと思いました。利用者の権利を理解し、より良い関わりをめざしていけるよう取り組んでいきたいと思います。
リスクマネジメントでの今後の対応が、行動を止めたり見守り強化ではない対応方法ができるように、認知症や、病気についてももっともっと理解して行かなくてはと思いました。また、チーム支援ができるように委員会などを活用して行きたい。
今、利用者さん中心より職員中心になってしまっているところが有るので、利用者さんを中心にし、利用者さんが、安心して暮らせて、ここの施設で生活出来て良かった。と思ってもらえるような対応だったり環境を整えて、支援していけたらいいなあと思います。また、自分も今以上にスキルアップ出来る様に努力していきたいと思います。
自分の知識不足がわかったため、しっかり勉強して適切に対応したい。
まだまだ基本的な理解が足りないと感じた。改めてまず基本の内容を確認していこうと感じた。
今回学んだ事を振り返り自分自身の介護に当たる姿勢や接遇について見直すだけでなく他職員と情報共有を行い職員間でも周知を徹底していきたいです。
多くの職員が理解、正しい知識を持てるように、まずは自分がしっかりと説明できるように学んでいきたい。
他スタッフと情報を共有し施設としてスキルアップ出来るようにしていきたい。
早速、今月の内部研修で認知症の対応と併せて講義に生かしました。
介護施設従事者による虐待は介護職が行っていると考えられることが多いが、全職種にも当てはまることを周知していきたい。介護職のみならず、良い行いが増えるような職員間での取り組みを行ってきたい。
心理的虐待・ネグレクトによる介護放棄問題を、困難事例として職員間で問題を共有するしかないと考えました。
今回学んだことを法人内でも共有していきたい。
他の職員のケアの内容、発言や介助が虐待、あるいはボーダーなのではないかと気づいてもらえるように「それ、ちょっとおかしいよ」と言えるように、委員会に議題を挙げたり

研修を行っていききたい。
ご利用者への対応に気を付けて、職場で相談できる体制、チームケア体制、連携体制をとって仕事をしたいと思います。
不適切な対応は虐待にあたるため、今後認識を変え、業務に取り組もうと思った。今回学んだことを他職員にも発信し、施設内で虐待に対しての認識を深めていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・他施設のことを知らない、自分の施設の方向性や規模が違うため興味を持たなかったことが自覚できました。グループでの会話で理念会議等の理念を再確認や見直しをしているとの話を聞いて、理念の話だけでなくユニットに新規職員や移動した職員が来た際に目標等の見直し・自分達で考えることで、目標への当事者意識を持てる・再確認できるのではないかと思い、取り入れて様々な場面で活用していければと考えています。 ・自分の行動を振り返って、知識や経験が不足しているからとパートナーリズムを自分がやっちゃっているのではないか、他職員にやらせてしまっているのではないかと思いました。入居者様にこれからいい生活を送ってもらうために、まずは現実的な範囲からでこれまで実行してきた対応への振り返りや他のスタッフに意見を聞いて状況を改善していければと思います。

その他、なんでも。
・慣れや忙しさから、あまりよろしくない関りになっていたかもしれません。定期的に理念や専門職としての運営基準、役割や専門性を振り返りながら、良い関わりが行えるよう皆で振り返りの時間を持っていききたいと思います。
研修中にもありましたが、経営者・施設長と呼ばれる人たちが人権や意思決定支援などの研修へ赴くことがなく、現場との温度差を感じる。今後の方向性を定める方たちが積極的に「人の権利を守る」研修へ足を運んでくれることを願います。
ありがとうございました。
研修して色々学び勉強できて良かったです。
改めて、今までの自分を振り返ることが出来た研修でした。お忙し中での小湊先生の研修に参加できたこと感謝致します。ありがとうございました。
今回研修に参加させて頂きありがとうございました。
色々な方の意見等を聞いて大変勉強になりました。
参考資料が出せない常態で受講しましたが、結構理解できました。ありがとうございました。
とても勉強になりました。ありがとうございました。